“ちいさな企業”成長本部（愛知県豊橋市）
議事概要

中小企業庁

・日時：平成２５年１０月８日（火）１３：３０～１５：１５

・場所：愛知県豊橋市（ホテルアソシア豊橋）

・「“ちいさな企業”成長本部」行動計画等に関する取組をご紹介いただくとともに、意見交換を行った。

・参加者からの主なご意見は以下のとおり。

＜中小企業・小規模事業者＞

○　新分野進出や産学連携等で地域の活性化を図っていきたいが、目先何をすればいいか分からない企業がたくさんいる。初歩的なところからコーディネーターの育成を支援していただきたい。

○　製品技術の開発に関する自治体の補助金は製造業に偏りが感じられるので、他分野も是非対象にして欲しい。

○　各地域で形成される独特の食文化も、地域の気候や土壌によって作り上げられたものであり、「地域のリソース」の一種である。

○　海外展開を図っているが、大手等だと現地駐在員事務所などがおり、サポートが可能であるものの、小規模企業になると商社に頼らざるを得ない。支援があるとありがたい。

○　これまで日本は品質が良い物だけを作ってきて、ブランド化をしてこなかった。クールジャパン戦略はブランド化という話をするとき非常に強い力を持っている。日本でしか出来ないものを作っていくべき。

○　顧客の大半は個人であり、財布の紐は固い。景気のいい話はテレビや新聞だけなのだろうか、というのが実感。そんな状況の中、消費増税が一番の懸念。

○　農商工等連携事業に認定されてよかったと思ったことは、社会的信頼を得られたこと。過去もらったことのある名刺を初めて活かすことが出来るようになり、新たな取引につながっていった。

○　育児や介護は依然女性の大きな負担。当社では女性パートも有給休暇の全日消化、勤務時間も柔軟に対応。

○ 次の世代としては、現在の下請け構造からの脱却を図っていかないといけないと思ってはいるが、物を作る事は出来てもやはり流通のノウハウはないので、支援してほしい。

＜支援機関等＞

○　他の支援機関が何をやっているかまだよく分かっていない。自分たちに出来ないようなこともある、と認識しているので、是非、他の方々と交流を図っていきたい。

○　支援機関は企業の方々と密な繋がりがあるため、何を欲しているのか分かるのが強み。そういった方々を如何に行政と繋いであげるかが役割だと思っている。これからも注力していきたい。

○　昨年、愛知県では愛知県中小企業振興基本条例を制定。この中でとりわけ、小規模事業者の皆様をしっかり支えていくことを謳っている。これに基づき、きめ細かい支援を展開していくよう努めている。

○　企業の強みを製品に活かすためにはどうすればよいか、製品を販売につなぐためには、企業同士をつなげるにはどうしたらいいかといった問題について、支援側も連携し、企業同士も連携することが望ましいと思う。

以上